## 1984 年京大文 2

(1)

$$f(x+c)-f(x)=2^{\sin(x+c)}-2^{\sin x}=2^{\sin x}(2^{\sin(x+c)-\sin x}-1)$$
 
$$f(x+c)-f(x)=0$$
 が成り立つのは、  $2^{\sin(x+c)-\sin x}=1$ 、 すなわち  $\sin(x+c)-\sin x=0$  のとき。 
$$\sin(x+c)-\sin x=2\cos\left(x+\frac{c}{2}\right)\sin\frac{c}{2}=0$$
 のとき、  $\cos\left(x+\frac{c}{2}\right)=0$  はすべての  $x$  について成立しないから 
$$\sin\frac{c}{2}=0$$
  $\frac{c}{2}=n\pi$  ∴  $c=2n\pi$   $(n>0)$   $f(x)=2^{\sin x}$  は周期関数であり、周期は  $2\pi$ 。

(2)

$$f(x+c)-f(x)=\sin(\sin(x+c))-\sin(\sin x)=2\cos\frac{\sin(x+c)+\sin x}{2}\sin\frac{\sin(x+c)-\sin x}{2}$$

$$-1 \le \sin(x+c) \le 1, -1 \le \sin x \le 1$$
 であるから 
$$-2 \le \sin(x+c)+\sin x \le 2, -2 \le \sin(x+c)-\sin x \le 2$$
したがって、
$$-\frac{\pi}{2} < -1 \le \frac{\sin(x+c)+\sin x}{2} \le 1 < \frac{\pi}{2}, -\pi < -1 \le \frac{\sin(x+c)-\sin x}{2} \le 1 < \pi$$
 より、
$$f(x+c)-f(x)=0$$
 が成り立つのは、
$$\frac{\sin(x+c)-\sin x}{2}=0$$
、すなわち 
$$\sin(x+c)-\sin x=0$$
 のとき。
$$(1)$$
 と条件は同じであるから 
$$\therefore c=2n\pi \ (n>0) \qquad f(x)=\sin(\sin x)$$
 は周期関数であり、周期は  $2\pi$ 。

※(2)は、理系[2]の(1)と共通。